

タイトル



わが国における ハームリダクションの 可能性

-薬物依存症者の地域支援のために

講師

松本 俊彦 先生

(国立精神・神経医療研究センター薬物依存研究部)

- 薬物依存症者に必要なのは、厳罰ではなくケアと支援です。依存症支援の最前線として海外で導入が進みつつある「ハームリダクション」とは「違法であるかどうかに関わらず、精神作用性のあるドラッグについて、必ずしもその使用量は減ることがなくとも、その使用により生じる健康・社会・経済上の悪影響を減少させることを主たる目的とする政策、プログラム、そして実践」を指す概念です。
- 薬物を禁止するのではなく、付き合い方を変える。「ダメ、ゼッタイ」の厳罰主義が主流のわが国において、この概念はどのように導入されるべきでしょうか。依存症の第一線で戦う精神科医による貴重な提言です。
- 【講師略歴】2004年に国立精神・神経センター（現、国立精神・神経医療研究センター）精神保健研究所 司法精神医学研究部室長に就任し、以後、同研究所 薬物依存研究部室長、自殺予防総合対策センター室長、副センター長などを歴任し、2015年より同研究所 薬物依存研究部 部長に就任。2017年より国立精神・神経医療研究センター 薬物依存症センターセンター長に併任。主著やメディア出演も多数、わが国における薬物依存対策の第一人者。

日時

2018年 **11月14日(水)** **15:00-18:00**

(17:00から1時間程度は、講師を囲んでの茶話会を予定しています)

会場

筑波大学 つくばキャンパス 総合研究棟D **D116教室**

※D棟前のロータリーは駐車禁止となっております。D棟斜め前のゲート駐車場をご利用ください。

申込・お問い合わせ

参加費は**無料**です。どなたでもご参加ください。

お問い合わせはヒューマン・ケア科学専攻事務室 human_jimu@yahoo.co.jp まで。

当日参加も可能ですが、資料準備の関係上、できるだけこちらから申し込みをお願いいたします。